■ジーアンドエスエンジニアリング

人を中心に据え国を守り国を創る

ジーアンドエスエンジニアリング（福岡市）は、九州や関東を営業地盤に、主に道路や橋梁（きょうりょう）、河川、上下水道など、暮らしを支える社会インフラの調査や官公庁から直接請け負う総合建設コンサルタントとして実績を重ねている。近年は、次世代人材の獲得と育成に注力しており、未来志向で街づくりに挑んでいる。

児玉 和久 社長

50年で培った技術と実績 11年連続優良等工事表彰

官庁や自治体の技術パートナーとして、打ち合わせから調査、企画、設計、管理、点検までを手がけている建設コンサルタントとして業歴を重ねているジーアンドエスエンジニアリング（児玉和久社長）は、年間200件を超えるさまざまなプロジェクトを受注するなど、圧倒的な受注力と実績で、地場トップクラスをひた走る。

「国を守り国を創る～日本の幹となれ」を具現化し、夢のある豊かな社会の実現に貢献するという使命に基づき、子どもたちに誇れる未来の街づくりに取り組んでいる。2023年には創立50周年を迎え、第二の創業期として新たな技術へチャレンジしながら、時代に合わせた街の成長を後押ししている。

長年、培った信頼の技術と実績は発注機関から高い評価を受けており、東京都建設局・各事務所から「優良工事等表彰」を11年連続受賞（12～22年度）している。24年度には東京都建設局から「善福寺川整備工事に伴う基本修正設計及び詳細設計（二枚橋から大宮橋）」、「新河岸川防潮堤耐震対策基本設計」が優良工事等表彰を受けた。

また、地元の福岡市では、同社にとってもチャレンジングなプロジェクトとなっているのが、「博多バイパス（空港口工区）橋梁予備設計業務」。国道3号博多バイパス（下臼井―空港口）の慢性的な渋滞緩和のため、高架4車線、平面4車線の合計8車線に変わる工事となる。児玉社長は「緊張感とやりがいを持って取り組んでいるプロジェクト。福岡空港周辺全体の交通円滑化で、都市型の福岡空港への利便性を高めたい」と意気込む。

他方、同社は過去にも、水害から都市を守る地下調整池（福岡市博多区、福岡県春日市）や、脱炭素社会に向けた移動式水素ステーション（福岡県庁）を計画したほか、鉄道駅の空中回廊の計画設計（JR小倉駅、城野駅）など、建設コンサルタントの枠組みを超えたプロジェクトに参画、時代変化に対応する新しい街づくりの先導役を担ってきており、「福岡市の街の成長スピードにインフラ整備が追いついていない面もあり、我々が貢献できる領域はまだあるはず」（同社長）として、次なる街の課題解決に目を光らせる。

博多バイパス（空港口工区）の立体交差パース

賃上げの流れに積極対応 地場トップクラスを実現

同社が近年注力しているのが、次世代を担う若手人材の採用だ。毎年、10人程度の新規採用を行っているが、昨年は近年の賃上げの流れを反映し、大幅に給与水準を引き上げ、優良な人材確保に努めている。例えば福岡本社勤務の月給は、技術職で大卒は27万円、大学院卒は28万円、専門・短大卒で23万円、高卒で22万円。営業職（大卒）は26万円、事務職（大卒）は24万円となっている。

従来からさまざまな方法で採用活動を展開してきたが、強固な営業基盤と収益力を背景に給与水準を地場トップクラスにまで引き上げた。今後は「既存社員の賃上げも並行して行っていく必要があり、人件費の負担は大きくなるが、当社の仕事は人材によって支えられている。そこに対する投資は惜しまない方針」（同社長）としている。

同社が採用活動に注力するのは自社のためだけではない。全国的に、技術系の学生が著しく減少傾向にあることを踏まえ、児玉社長が将来の日本の技術力維持について危機感を募らせているためだ。「当社だけで人材育成に努めても当然だが限界はある。建設コンサル業界全体で人材を呼び込む努力と魅力発信が必要なのではないか」と提言する。「九州だけでなく各地で災害が頻発するなかで、地元に密着した技術者を育てることは、社会インフラの維持に直結する問題」とも指摘する。

九州大学

感謝状

ジーアンドエスエンジニアリング株式会社 殿

貴社は公不要応援基金への支援を
自治として九州大学基金に対し多額の
ご寄付をされ本学の教育・研究環境の
整備に多大な貢献をされました
ここに深く感謝の意を表します

令和7年5月12日

九州大学総長 石橋 達朗

九州大の学生に自社資金で奨学金を給付

九大創設奨学金制度参画 自社名冠の奨学金を給付

一方、同社として初の試みが今年度からスタートする。地元の国立大の九州大（福岡市）が今年度から始めた学生の未来を企業が支える「企業型冠奨学金」に参画した。同奨学金は、社会課題の解決に意欲的に取り組む学生を支援し、企業が奨学金の名称や採用人数を自由に設定できる給付型の奨学金。九州大の学生を対象にした「ジーアンドエスエンジニアリング奨学金」が創設され、その趣旨は「九州の発展と日本の将来を担う技術者を志す学生を支援し育成することを目的としている」とし、3人程度、1人当たり年間85万円を給付する。4年間だとすると約1000万円となる。

このような奨学金制度は、大学卒業後はその企業に入社するという縛りがあるのが一般的だが、この奨学金制度にはそうした縛りは一切ない。ある意味で、企業にとって、ボランティアに近いものになる可能性もある。しかし、児玉社長は「奨学金を給付した学生がいつか社会に出て活躍していくなかで、当社の社名を冠した奨学金を受けたことが頭の片隅に残っているだけでいいと思う。世間は広い。どこかで縁することもあるはず」と話し、「もちろん、当社に興味を持って採用試験を受けにきてくれるなら歓迎したいが、大きな気持ちで社会貢献する意図が強く、九大からの提案にも即決した」と話す。

同奨学金には同社のほか5社が参加しているが、「今こそ九州のために尽くしてくれる将来の人材を企業が真剣に育成していくときだろう。そのための投資ならば高くはないし、そうした志を共有できる地場企業が増えてくることを願いたい」と訴える。

児玉社長は「当社は〝企業は人なり〟の信条を貫き、半世紀以上にわたり成長し続けてきた。今後も人を中心に据えた経営で、夢のある豊かな社会の実現へ貢献していきたい」として、中小企業の枠組みを超えて、気概だけではなく実行力も含めて、地域のために尽くしていく考えだ。

賞状

貴社は本学奨学金制度に参画し
なお新始期を迎え
貴社は本学奨学金制度に参画し
なお新始期を迎え

令和六年九月二日

東京都建設局長 花井徹夫

賞状

貴社は本学奨学金制度に参画し
なお新始期を迎え
貴社は本学奨学金制度に参画し
なお新始期を迎え

令和六年九月二日

東京都建設局長 花井徹夫

東京都建設局の24年度の優良等工事表彰